

氏名(本籍地)	金子友美(神奈川県)		
学位の種類	博士(学術)		
学位記番号	博甲第66号		
学位授与年月日	平成25年3月16日		
学位授与の要件	昭和女子大学学位規則第5条第1項該当		
論文題目	都市のオープンスペースの概念規定モデル ーヨーロッパの都市広場とアジアの都市空間の分析ー		
論文審査委員	(主査)	昭和女子大学教授	芦川 智
	(副査)	昭和女子大学教授	竹田 喜美子
		昭和女子大学教授	友田 博通
		昭和女子大学教授	猪又 美栄子
		東京理科大学教授	宇野 求

論文審査結果の要旨

申請者は、1988年本学生活美学科の助手に就いて以来現在の准教授に至るまで24年間(大学院生として2年間は勤務を外れている)勤務している間に1990年から2005年まで19回実施された海外都市広場調査に16回加わり、都市広場の多くのデータを積み上げてきた。これが本学位請求論文の1章のデータベースとなったものである。そしてさらに2005以降現在までに行われてきたアジアのオープンスペースの調査研究については主体的に参加し、多様なオープンスペースの調査資料を蓄積してきた。ヨーロッパの都市広場だけでなく、アジアの広場の空間であるオープンスペースを数多く観察し、多様な姿をまとめ上げる枠組みを作り上げるという観点を得たものとする。都市のオープンスペースの類型概念を組み上げるという最終目標に到達するために、何段階かの数量化手法による分析を行い、最終的には都市広場データ100事例とアジアのオープンスペースのデータ100事例を数量化Ⅲ類にかけて、結果として二つの統合化できる軸、つまり空間性能軸と人間集合軸というものに到達した。

この二つの統合化された軸を元に一つの概念規定モデルを提案したことが、本学位請求論文の重要な成果である。この概念規定モデルは、それぞれの軸を3段階に分け、結果として $3 \times 3 = 9$ のレベルを提案する事となっている。両軸の最大段階のレベルと最小段階のレベルは明快で事例にも対応するものを示すことが出来る。しかし、中間の段階でのレベルについては、なかなか明快な記述が難しいが、金子は4章でその検証を試み、かなりの結果を出し得たと評価している。その意味で本論文で提案されたオープンスペースの概

念規定モデルの有効性をある程度検証されたと考えている。

また、この学位請求論文のためにデータ数が 1000 を超すデータベースを自力で組み上げたことは、今後の都市広場研究に資するところが大きくこの点でも本論文の価値を認めるものである。

規模の大きなデータベースを組み上げ、その中から必要なデータを抽出して数量化 3 類の多変量解析を何段階か繰り返して目標に到達し、そこで得られた統合軸である二つの軸を元にオープンスペースの概念規定モデルを組み立てて、さらにその有効性を検証した本学位請求論文の価値を認めることが出来る。

しかしながら、本研究には幾つかの問題点も見受けられる。概念規定モデルに示された 9 つの類型の内、相対する A 類型（最大都市レベルと人間集合の最大レベル）と I 類型（最小都市レベルと人間集合の最小レベル）については明快な説明と事例を挙げる事ができているが、A 類型と I 類型の間の類型についての説明はそれぞれ事例を挙げて検証しているが、若干曖昧さを残しているといえる。また千を超えるデータベースから何段階かの抽出を行って数量化Ⅲ類の分析を行っているが、その抽出の裏付けについても明快さに欠ける点が指摘された。とはいえこれらの指摘は本論文の価値を低めるものではない。

申請者は、都市のオープンスペースの研究を長きにわたり一貫して続けてきた事は意義深いものとする。いくつかの課題は残るとしても概念規定モデルという新たなモデルを提案し 9 つのオープンスペースの類型概念を抽出した事は本論文の価値であり、学位論文として十分評価に値すると審査員全員の一致するところである。

以上